

(セミナー名称) 東北大学大学院医学系研究科がん看護学分野主催 6月がん看護勉強会	
事例報告者 : 尾辻 美沙	
所属 : 東北大学大学院がん看護学分野	
テーマ : NICU で出会ったがんを抱えた母親の事例から AYA 世代のがん患者の看護について考える 第2報	
担当者氏名 : 佐藤 富美子 教授	所属 : 東北大学大学院がん看護学分野
内線 : 7926	Email: fsato@med.tohoku.ac.jp
1. 実施年月日 :	
平成 31 年 6 月 10 日	
2. 開催場所 :	
東北大学医学部保健学科D棟 217 号室 がん看護学分野カンファレンス室	
3. 関連分野 :	
AYA 世代、母性看護、がん看護	
4. 対象者 :	
がん看護に興味関心のある医療関係者・大学教員・東北大学大学院医学系研究科保健学専攻学生・東北大学医学部保健学科学生	
5. 参加人数 : (お分かりの範囲で内訳をお知らせください。教員、学生など)	
大学教員 3 名、大学院生 3 名、学部学生 1 名 計 7 名	
6. 成果 :	
<p>この度の事例報告は、先月に引き続き、第2報として、がん治療期にある母親役割取得に対する看護ケアの検討についてである。</p> <p>事例は、妊娠前より右下肢悪性黒色腫(ステージⅢb)の既往があり、病状進行により児を妊娠 29 週台で計画分娩し、NICU 入院となった事例である。</p> <p>事例の経過として 3 期に渡り報告があった。第1期：事例が児の誕生を受け入れる時期、第2期：親子の愛着が促進した時期、第3期：事例と児の退院準備の時期である。第1期では、分娩後に自身の治療に伴い母乳育児が継続できないことの悲嘆と児の誕生を喜ぶ感情が出現していた。第2期では、児への母乳育児に対して、事例の両親から反対を受けていた。看護支援は、事例と家族の母乳育児に対する影響の正しい知識が不足しているため、知識の提供を行った。第3期は、事例と児の退院準備の時期である。この時期には、事例よりも児が早期に退院し、子と会えなくなることに悲嘆が生じていた。看護支援は、退院までの間、事例に対して児に関する日々の様子を記した面会ノートを作成し、児の様子を伝えるようにした。</p> <p>以上の報告を基に、AYA 世代でがん治療期にある母親に対する看護援助についてディスカッションを行った。ディスカッションをもとに明確になった報告を受けた事例の課題は、治療を受ける事例の身体的負担を配慮した母乳育児を推進した看護ケアであったかである。NICU 看護師は母親役割獲得や、事例の希望に沿った母乳育児を推進した一方では、事例の予後を踏まえた治療状況や病気への受け止め、今後の療養生活の心配点に関する看護が不足している点である。</p> <p>治療期にあり、母親である事例が、治療継続しながら発達課題を達成していけるケアが必要である。第1報同様に、妊娠中がんと罹患が発覚した AYA 世代に対する看護には、児を守る NICU と母がケアを受ける場の、それぞれの組織が協働して、患者の自律性を尊重した看護に関わることができるシームレスな環境づくりが重要である。以上を参加者で共有した。</p>	

【当日の会場の様子などの写真がございましたら、添付ください】

